

動薬協会発 83 号
平成25年6月13日

公益社団法人日本動物用医薬品協会
会 員 各 位

公益社団法人日本動物用医薬品協会
理事長 福井邦顯
(公印省略)

第48回(平成25年度)優秀畜産技術者表彰候補者の推薦依頼について

当協会の業務運営につきましては、日頃からご支援、ご協力を頂きお礼申し上げます。
さて、標記のことについて、公益社団法人畜産技術協会より別紙のとおり通知がありましたのでお知らせします。

表彰を希望される方は、所定の様式に記入の上、E-mailにより平成25年11月15日までに、当協会へ申込みをお願いします。



25 畜技協第 242 号

平成 25 年 6 月 10 日

公益社団法人日本動物用医薬品協会 理事長 殿

公益社団法人 畜産技術協会
会長 菅野 茂



第 48 回（平成 25 年度）優秀畜産技術者表彰候補者の推薦依頼について

時下ますますご清栄のことと心からお慶び申し上げます。

平素は、当協会の運営について格段のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当協会は、財団法人 日本中央競馬会弘済会のご支援を得て、畜産技術者の技術向上を促し、畜産技術の普及・発達に資することを目的として、中堅技術者を表彰する「優秀畜産技術者表彰事業」を実施してまいりました。

これまでは、応募者、受賞者とも、その大部分が都道府県を中心とする官公署の関係者となっております。しかし、この表彰事業の趣旨から広く民間団体等の技術者についても顕彰し、畜産技術の発展向上を図ることが望ましいとの観点から、当協会の 4 号会員各位にも推薦母体として加わっていただき、会員団体あるいは会員各位の構成員である企業等に勤務されている技術者・研究者についての推薦方をお願いしております。

つきましては、平成 25 年度も別紙のとおり候補者の推薦をお願いしたいと存じますので、ご多用のところ誠に恐縮ですが、よろしくお取り計らいくださいますよう、お願い申し上げます。



第48回（平成25年度）優秀畜産技術者表彰候補者の 推薦および推薦状の記入についてのお願い

〔平成25年6月公益社団法人畜産技術協会（事務担当 総務企画部）〕

平成25年度の候補者ご推薦、推薦状ご記入について下記の点にご留意の上、よろしくお願ひいたします。

記

I 候補者の推薦について

1. 受賞対象者は、畜産技術の研究、開発または優秀技術の普及、指導上顕著な功績を挙げた者（表彰規程第2条）とされており、将来性に富み意欲ある優秀な中堅の技術者・指導者を対象としています（細則第1）。

このため、候補者としてご推薦をいただく方については、

- ①概ね50歳以下の者とし、
- ②受賞者は10件以内（細則第4）であることから、原則として1機関（〇〇県畜産試験場等）1名以内でお願いします。

また、すでに全国的表彰を受けた者は、原則として対象外となります（細則第1）。

2. 表彰の対象分野は、畜産技術に係る（1）家畜生産・飼養、（2）草地・飼料、（3）家畜衛生、（4）経営技術・指導、（5）行政・普及等の幅広い分野としますが、この5分野以外を対象とした候補者でも差支えありません。
3. この事業の趣旨としては、より広い範囲の優れた技術者の方を表彰することとされておりますので、団体・民間や独立行政法人等の研究者・技術者、また畜産の生産現場で活躍されている行政部局技術者の方の積極的なご推薦もお願いいたします。
4. 特に、経営技術・指導や行政・普及の分野にご推薦をいただく場合は、その技術者の業績が生産現場でどのような効果を挙げているかについて具体的にお示し下さい。
5. なお、前回までの審査において選外となられた方でも、更に業績を積み重ねられて受賞される例もみられますので、再度のご推薦についてもご検討をお願いいたします。
6. 受賞者は、畜産技術協会より推薦を依頼した団体（全国畜産関係場所長会、全国畜産課長会、家畜改良センター牧場長協議会）及び畜産技術協会の4号会員から推薦された候補者について、各分野の権威者で構成される審査委員会に諮り畜産技術協会会長が選考決定いたします（表彰規程第6条、細則第6）。

II 推薦状の記入について

受賞者の審査は、提出いただいた推薦状を基にして行われます。候補者が適切、公正に評価を受けられますよう、ご記入に際し特に次の点にご留意下さい。

なお、推薦状の様式は社団法人畜産技術協会のホームページ（<http://jlta.lin.gr.jp/>）からダウンロードできます。

1. 推薦状は、指定の様式によりA4版用紙2枚にまとめてください。各欄のスペース、活字の大きさは特に指定しませんが、推薦状はそのままコピーして審査資料とします。A4版用紙2枚以上にわたる長文の推薦状は2枚にして再提出をお願いすることになりますのでご注意ください。また、原稿は両面打ち出ししないで、必ず片面印刷2枚以内でお願いします。

2. 推薦状の「推薦者」は、候補者が所属する機関・団体の代表者等とします。
推薦状は、畜産技術協会が推薦を依頼した I-6. の団体を経由して提出されることを原則としますが、推薦団体の了解を得た上で直接送付（郵送に限る）されても結構です。

3. 「候補者の職歴と従事した業務の内容」欄については、候補者が関係した時期、機関と地位、従事した仕事の内容が明確になるよう時系列的に 2～3 行で簡潔に記入してください。

(記入例)

(1) 平成 2 年 4 月～平成 4 年 3 月

〇〇県畜産試験場〇〇研究部 研究員。 〇〇に関する研究開発

(2) 平成 4 年 4 月～平成 6 年 3 月

〇〇県畜産技術課〇〇係長。 〇〇に関する技術行政事務

(3) (民間勤務、自営がある場合)

平成 6 年 4 月～平成 8 年 3 月

〇〇株式会社 開発部 研究員(社員)。 〇〇の開発(営業)

〇〇県〇〇郡で養鶏業(5 万羽)を自営

(4) (JICA 等海外勤務がある場合)

平成 8 年 4 月～平成 10 年 3 月

JICA 海外青年協力隊員として〇〇国の〇〇において〇〇を指導

4. 「表彰に値する業績の概要」は、候補者の業績について「研究業績」と「技術普及に係る業績」に分けて記入して下さい。時系列ではなく、主要なもの順にタイトルを付けて、業績の背景、事実、何に優れ(貢献し)どのような効果があったか等について、簡潔かつ明確に記入して下さい。

(業績では具体的な成果名や開発した商品名等があれば記述し、普及面では改善された点等を可能な限り数値等で示して下さい。)

大きい事業や共同研究に係る業績については、そのプロジェクトにおける候補者の位置づけ、果たした役割が明らかになるようにして下さい。また、本人の発見によるものか、既往の成果を応用したり、改良したりしたものかが分かるように記述して下さい。

この「業績概要のまとめ方」が審査に影響しますので、専門分野以外の審査員にも候補者の功績がわかるような記述をして下さい。

なお、前年度までの受賞者の記入例を求められましても、事務局としては応じられませんのでご了承下さい。

5. 「過去の受賞歴」は、候補者の受賞歴(受賞内容)について記入して下さい。また、グループ受賞の場合は分担を明記して下さい。

6. 「その他の参考事項」としては、研究報告、特許、実用新案、事業報告などをご記入下さい。その場合、報告者名や特許申請者名等は必ず全員を記述し、複数名の場合は、貢献度の高い者を筆頭にして下さい。公刊された図書・雑誌、資料の別刷り等の添付は不要です。必要な場合には、こちらから別途要請いたします。

III 推薦状の提出期限

推薦状の提出期限は、平成 25 年 12 月 15 日(日)としております。

推薦団体を経由して提出される場合は、推薦団体における取りまとめ作業等もありますので、できるだけ早めに推薦状を提出して下さい。

公益社団法人畜産技術協会	
〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9	
電話	03-3836-2301
FAX.	03-3836-2302
e-mail	: oubo@jlta.jp
担当者: 総務企画部 新井	

表彰に値する 業績の概要	
過去の受賞歴	
その他の参考事項	

※「表彰に値する業績の概要」の欄を読むことで表彰候補者の功績が明確にわかる記述をして下さい。
また、グループ等による業績の場合は、その業績における表彰候補者の役割を明記して下さい。

優秀畜産技術者表彰規程（抜粋）

（平成 25 年 4 月 1 日変更）

（目的）

第 1 条 この表彰は、畜産技術者の技術向上を促し、畜産技術の普及発達に資することを目的とする。

（表彰を受けるもの）

第 2 条 表彰は、畜産技術の研究、開発又は優秀技術の普及、指導上顕著な功績を挙げたものに対して行う。

（表彰を行うもの）

第 3 条 表彰は、公益社団法人畜産技術協会（以下「協会」という。）の会長が行う。

（授与品）

第 4 条 表彰は、表彰状を授与して行う。この場合、副賞として賞金又は賞品を授与する。

（表彰期日）

第 5 条 表彰は毎年 1 回行う。

（選考及び決定）

第 6 条 表彰を受けるものは本協会より推薦を依頼したものが推薦した候補者のうちから表彰審査委員会に諮り協会の会長が決定する。

（表彰審査委員会）

第 7 条 表彰を公正かつ適切に行うため、表彰審査委員会を設置する。

2 表彰審査委員は選考の都度会長が委嘱する。

優秀畜産技術者表彰規程細則（抜粋）

（平成 15 年 4 月 14 日変更）

第 1 条 この表彰を受ける者は、畜産技術開発および行政に係る将来性に富む意欲ある中堅技術者とし、原則として過去に同種の業績で全国的なレベルの表彰を受けたことのない者とする。

第 2 条 表彰の期日は、会長が定める。

第 3 条 表彰を受ける者の推薦は、別記様式により、毎年 12 月 15 日までに提出する。

第 4 条 表彰をうける者の数は、毎年 10 件以内とする。

第 5 条 表彰の対象分野は、次のとおりとする。

- (1) 家畜生産・飼養の部
- (2) 草地・飼料の部
- (3) 家畜衛生の部
- (4) 経営技術・指導の部
- (5) 行政・普及の部

**優秀畜産技術者賞
受賞者一覧
第38回から第47回まで**

(注)・年度欄の()内は受賞者数を示す。

・備考欄の◎印は特別賞を併せて受賞した者を示す。

・備考欄の※印は全国畜産課長会推薦者、☆印は家畜改良センター・牧場長協議会推薦者、○印は4号会員推薦者、無印は全国畜産関係場所長会推薦者、◆印は全国畜産課長会と全国畜産関係場所長会の両者からの推薦を示す。

年度	氏名	所 属	備 考
第47回 24年度 (10)	青木 義和 秋山 清之 生沼 英之 佐藤 克昭 島袋 宏俊 高橋 和裕 水流 正裕 永井 秀樹 村上 圭一 力丸 宗弘	滋賀県農政水産部畜産課 神奈川県農業技術センター畜産技術所 福島県農業総合センター畜産研究所 静岡県畜産技術研究所 沖縄県畜産研究センター 香川県畜産試験場 長野県農業試験場 兵庫県立農林水産技術総合センター 三重県農林水産部農業戦略課 秋田県畜産試験場	◎ ◆ ※ ◎◆
第46回 23年度 (10)	浅井 英樹 岩本 英治 大坂 郁夫 大栗 田隆之 後藤 美津夫 嶋澤 光一 長井 誠一 中原 仁也 山本 泰也 脇屋 裕一郎	岐阜県畜産研究所 兵庫県立農林水産技術総合センター 畜産技術センター 北海道立総合研究機構 根釧農業試験場 愛知県畜産総合センター 群馬県畜産試験場 長崎県農林技術開発センター 石川県畜産総合センター 岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 三重県畜産研究所 佐賀県畜産試験場	◎ ◎ ◎
第45回 22年度 (10)	浅田 勉 尾形 康弘 小堤 万里子 小柳 涉 小陰 聡一 川嶋 賢二 小山 太子 立川 昌子 龍田 健司 三角 浩司	群馬県畜産試験場 広島県立総合技術研究所 茨城県農業総合センター 新潟県農業総合研究所畜産研究センター 北海道立総合研究機構畜産試験場 千葉県畜産総合研究センター 福岡県農業総合試験場 岐阜県畜産研究所 兵庫県立農林水産技術総合センター 畜産技術センター 独立行政法人 家畜改良センター	◎ ◎ ◎ ☆
第44回 21年度 (10)	青柳 和重 上原 力 恵本 茂樹 川村 英輔 小原 潤子 柴田 昌利 白石 誠 橋谷田 豊 福島 護之 保倉 勝己	山形県立農業大学校 香川県畜産試験場 山口県農林総合技術センター 神奈川県畜産技術センター 北海道立畜産試験場 静岡県畜産技術研究所中小家畜研究センター 岡山県総合畜産センター 独立行政法人家畜改良センター 兵庫県立農林水産技術総合センター北部農業技術センター 山梨県酪農試験場	◎ ◎ ◎
第43回 20年度 (10)	生田 健太郎 金谷 千津子 河野 幸雄 座喜味 聡 仙名 和浩	兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センター 富山県農林水産総合技術センター畜産研究所 広島県立総合技術研究所畜産技術センター 沖縄県家畜衛生試験場 北海道畜産試験場	◎

年度	氏名	所 属	備考
第43回 20年度 (10)	長峰孝文 長谷川清寿 原増田隆晴 矢内清恭	財団法人畜産環境整備機構畜産環境技術研究所 島根県畜産技術センター 長野県畜産試験場 岩手県中央農業改良普及センター滝沢駐在 福島県農業総合センター畜産研究所	◎◎
第42回 19年度 (10)	阿部正彦 内布幸典 片山信也 三枝俊哉 坂本恭一 関誠一 松下浩一 山下裕昭 吉羽宣明 四ツ島賢二	福島県農業総合センター畜産研究所 福岡県阿筑家畜保健衛生所 静岡県畜産技術研究所 北海道根釧農業試験場 愛媛県畜産試験場 新潟県農業総合研究所畜産研究センター 山梨県畜産試験場 熊本県熊本農政事務所 埼玉県農林総合研究センター畜産研究所 富山県農業技術センター畜産試験場	※◎ ◎
第41回 18年度 (10)	井出忠彦 木野勝敏 草刈直仁 高田直和 田淵賢治 轟木淳一 名倉義夫 新居雅宏 藤谷泰裕 室井章一	長野県畜産試験場 愛知県農業総合試験場 北海道立根釧農業試験場 宮城県畜産試験場 香川県畜産試験場 鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場 独立行政法人家畜改良センター長野牧場 徳島県立農林水産総合技術支援センター畜産研究所 大阪府立食とみどりの総合技術センター 栃木県酪農試験場南那須育成牧場	◎ ◎◆ ☆
第40回 17年度 (10)	安宅倭隆 足立憲隆 阿部正八郎 阿部則夫 石橋和樹 河原崎達雄 坂口慎一 谷口雅律 野田昌伸 守川信夫	農林水産省大臣官房 茨城県畜産センター 大分県農林水産研究センター畜産試験場 青森県農林総合研究センター畜産試験場 福岡県中央家畜保健衛生所 静岡県中小家畜試験場 岐阜県畜産研究所 熊本県農業研究センター畜産研究所 兵庫県立農林水産技術総合センター北部農業技術センター 沖縄県畜産試験場	◎☆ ◎※
第39回 16年度 (10)	小嶋睦次 佐藤茂利 澤井利幸 鋤柄幸雄 鈴木暁 芹沢駿之治 南宮橋昭 官島恒晴 村野多可子 米村功	兵庫県立農林水産技術総合センター淡路農業技術センター畜産部 福島県畜産試験場草地飼料部 山口県畜産試験場 愛知県農林水産部畜産課 岩手県農林水産部畜産課 静岡県畜産試験場 北海道立畜産試験場 佐賀県畜産試験場 千葉県畜産総合研究センター 鳥取県畜産試験場	◎ ※ ◎
第38回 15年度 (10)	伊藤裕和 宇田三男 古賀照章 桜井和巳 杉本真由美 住尾善彦 馬場武志 藤野幸宏 森本正隆 渡辺千春	愛知県農業総合試験場畜産研究部 茨城県畜産センター 長野県畜産試験場 山梨県農政部農業技術課 独立行政法人家畜改良センター 熊本県農業研究センター畜産研究所 福岡県農業総合試験場畜産環境部 埼玉県農林総合センター畜産研究所 北海道立畜産試験場技術普及部 滋賀県農業総合センター畜産技術振興センター	◎☆ ◎ ※